

[リサーチハイライト1]

バングラデシュの社会的弱者包摂にむけての課題 ー障がい者支援を通じてー

佐野 光彦

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 社会リハビリテーション学科

発展途上国では、15～20%の人々が何らかの障害を持っていると言われる。社会保障制度が弱い発展途上国に対する支援として、参加型開発アプローチ、あるいは貧困層や女性の自立を促すような方策は行われていたが、障がい者を対象にする支援策はほとんど行われていなかった。従来、発展途上国の社会保障に関する研究において中心的な課題とされるのは、貧困問題である。このような傾向のもとで、障がい者問題は貧困問題に比して 2 次的な課題と位置づけられ、経済発展が障がい者の生活環境の改善を導くという論理に絡めとられる形となっていた。つまり、障がい者の生活保障に関わる議論は、貧困研究の影響力のもとで十分な展開がなされず、看過され続けてきたといえる。

これらの興味関心から研究チームを形成し、バングラデシュの障がいを持った物乞いの人々の調査から障がいと貧困の問題を考え、政府の政策を補完しているNGOの活動と連携を深めた。現在は、具体的な問題解決のため、東京のO社のバングラデシュ支援プロジェクトへのサポート、現地の視覚支援学校やNGOなどと共同研究を行っている。そして、メンバーそれぞれの専門領域を基盤に広範な視野に立ち、分野横断的な政策を考察して、弱者包摂のための総合的実践モデルの構築を成し遂げ、国連が目指すSDGs（持続可能な開発目標）の 17 の目標の 4、「質の高い教育をみんなに」に繋げようとしている。そこで今回は、本チームの研究活動の具体的な例について詳しく報告する。